NEW WAVE



vol.09

研修医・専修医のためのコミュニケーション情報誌 NHOニューウェーブ



Special 特集:明日の生命を育む周産期医療

地域との連携、臨床と研究両方の視点で周産期医療のさらなる充実を推進。

妊娠、そして出産。新しい生命の誕生に立ち会い、母子双方の健康を守る周産期医療。国立病院機構では、各地域の総合周産期母子医療センターを中心に、1人でも多くのお母さんが安心して出産できる環境づくりに取り組んでいます。

今回は、2003年12月に国立病院として全国で初めて正式認可された総合周産期医療母子医療センターを持ち、2013年5月には善通寺病院と統合、「四国こどもとおとなの医療センター」として新スタートを切る香川小児病院新生児内科の岡崎薫先生にお話をうかがいました。

課題はベッド不足と人手不足 将来的にはエリア単位で解消を

総合周産期母子医療センターは基本的に各県に1つ以上、設置されることになっています。香川県では当院と香川大学の2カ所ですが、超低出生体重児などを受け入れるNICU(新生児集中治療室)は両院ともに常に満床の状態。一番の問題はやはりベッド数の不足でしょう。ただし、今年に入って地域周産期母子医療センターが増えましたし、来年度、新病院に移行すれば今よりは

改善されるはずです。

しかし、私としては周産期医療のベッド数を県単位でコントロールするのは難しいのではないかと考えています。県内で限られたベッドが埋まってしまえばお手上げという状態は好ましくありません。しかし、近県に目をむければ、たとえば高知県に1つ、徳島県には3つ、愛媛県には6つの総合周産期母子医療センターがあります。県内で無理なら隣接する県のセンター同士が連携し、四国単位で考えたほうがいいと思うんですね。

もちろん、住む地域と入院する地域が遠くなる のは患者さんにとってはデメリットですし、母子分

【お詫び】前回号(Vol.08 NHO国内留学プログラム特集)に掲載しました学会認定状況一覧表に不備がありましたため、今回あらためて訂正版を掲載いたしました。 病院関係者の皆様へご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。

Special 特集:明日の生命を育む周産期医療

日本の新生児医療のレベルは世界一。クリエイティブな発想でよりよい医療を。



■香川小児病院新生児内科 岡崎薫先生

離の問題が出てきてしまいます。しかし、県単位で 十分な医療体制がとれない場合、より広域のエリア でまとまってやっていくという視点が必要なのではない かと感じています。

また、当院は小児専門病院なので、未熟児や早産児はもちろん、先天的な疾患で手術が必要な子どもたちを小児外科や脳神経外科などで数多く受け入れています。全国的に子ども専門の外科医は非常に少ないですが、この病院ではエキスパートが揃っているんですね。手術が必要な子どもたちを専門施設に集めたほうが治療成績が上がりますし、ノウハウも蓄積され、長期的に見てもよい結果につながるでしょう。

実際、当院は高速道路網の中心に位置し、ロケーションに恵まれています。手術が必要な子どもは 県内はもちろん、愛媛県東部や高知県からも訪れます。ここだけに設置されている診療科も多いので、多彩な病気の子どもたちを受け入れる体制が整っています。白血病や人工呼吸器が必要でICUに入院しているような小児患者にはお母さんの宿泊スペースも用意しています。周産期医療も県単位では なく、もっと広いエリアで考えるべき時代ではないでしょうか。

現在、新生児科の医師は5人。来年1人増えて6 人体制になります。NICUが9床なので、当直回数 は週に1、2回で済む計算ですが、ドクターズカーに よる緊急搬送にも対応するため、出動があると別の 医師が待機しなければならない。つまり、救急対応 のために当直日が倍に増え、単純計算で3、4日に1 回になると拘束時間が長くなり、やはり負担が大きい ですね。そういう意味では人手不足の解消も今後の課題です。

未熟児網膜症が減少する一方早産児、低体重児が増加

少子化が問題になっていますが、新生児には早産児が増え、出生体重も減少傾向にあります。つまり、早く生まれたり、小さく生まれてくる赤ちゃんが日本の将来を担っていかなくてはならない。私たちの世界では「後遺症なき生存」と言いますが、いつもれを念頭に置いて治療に取り組んでいます。実際、早産児、低体重児で生まれても、後遺症が残る赤ちゃんは確実に減りつつあります。たとえば、以前は非常に多かった未熟児網膜症。これは網膜剥離で目が見えなくなってしまうのですが、妊娠20週台前半ぐらいで生まれたケースでは、かなり確率が高い病気でした。といっても10年以上前の話ですが…。今は研究が進んで、未熟児網膜症になる赤ちゃんは少なくなりました。

来熟児イコール合併症・後遺症というイメージがありますが、現在では妊娠27週を超えれば、後遺症はほとんどないと言われています。日本の新生児医療のレベルは世界一ですね。理由は日本人の繊細さと手先の器用さによる部分が大きいです。非常に気をつけてきめ細やかに診ますし、人工呼吸器の性能も格段に向上しました。

新しい治療としては、肺動脈の圧を下げる一酸 化窒素吸入療法、そして仮死状態で生まれてきた



香川小児病院 DATA

独立行政法人 国立病院機構 香川小児病院

■ 所在地

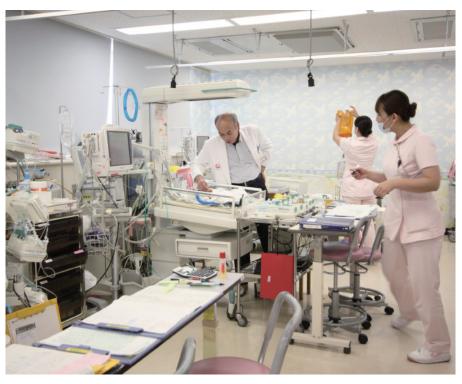
〒765-8501 香川県善通寺市善通寺町2603 TEL (0877) 62-0885 (代) FAX (0877) 62-5384 http://www.kagawasy-hosp.ip/

■ 病床数

500床(NICU9床、新生児病棟21床、手術室MFICU6床、産科病棟30床)

■ 診療科目

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、小児科、外科、整形外科、形成分科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、産婦人科、眼科 耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、新生児内科、小児・ 思春期料、不妊治療科、周崖崩内科、血液、腫瘍内科、児童心療内料



赤ちゃんに対する脳低温療法。この2つが効果を上 げています。NICUがある病院や総合周産期母子 医療センターにはこれらの療法に必要な機材がほぼ 揃っています。

親であればだれでも自分の子どもには最高の医 療を受けさせてやりたいと思うはずです。自分なら具 合が悪くても数日は我慢するのに、子どもが熱を出 すとすぐ病院に連れてきたくなる。だから我々のような 専門病院が果たす役割は大きいです。「自分の子 どもだと思って治療をしろ」と教わりましたが、今でも そう思いますし、迷った時はいつもその原点に立ち 返ります。

虐待につながる問題の芽は 早期と長期の両方でフォローアップ

未熟児の問題は、昨今事件化することも多い虐 待の原因にもなり得ます。生まれた時、母子分離に なると親子のその後の関係に微妙に影を落とします。 最初は病室にいる赤ちゃんに面会に来るだけだった のが退院すると24時間ずっと一緒にいるようになりま す。夜泣きもすれば世話も必要。イライラするお母さ んが出てくるわけですよね。

でも、病院の外に出てしまえば、私たちにはなにも できません。そこで地域の保健師さんとのつながりを すごく大事にしています。私たちだけでは手が回ら ないので地域医療連携室のスタッフががんばってく れています。周辺との連携は非常に重要で、産婦 人科のドクターも気になる妊婦さんがいれば事前に 情報提供してくれますし、出産後も地域医療連携 室に話が行き、リスクのあるお母さんのフォローを心 がけています。退院したらすぐ保健師さんが訪問し て、その報告が入る。問題がありそうなら保健師さ んが頻繁に訪ねるようにお願いしています。

ただ保健師さんだけでは限界があるので、私た ちも1000g以下で生まれた超低出生体重児は、6~ 9歳ぐらいまでは外来で診療します。順調に成育し ていれば半年で終了しますが、そういうフォローアッ プの外来も大事なんですね。通常は超低出生体重 児であっても、身体の成長はだいたい3歳頃までに 追いつきます。妊娠26~27週あたりが境目で、27 週以上であれば知能の発達もおおよそそこで同等 になります。27週未満の出産であっても、合併症や 後遺症がなければ知能も小学校1~3年頃までに 追いつきます。

ただ、未熟児は多動性障害や自閉症のリスクが ちょっと高いんですね。そういう子を早く発見するの が医師である私たちの役目です。そうでないと、お 母さんが自分の育児が悪かったんじゃないかと責任 を感じて追い詰められてしまう。早期に介入してフォ ローアップする必要があります。そういうリスクも含め て、退院したら終わりではなく、周囲と連携しながら 息長くサポートして、お母さんを孤立させないことが 虐待防止につながるのではと考えています。

合併症を持つ妊婦の診療も可能に 量と質が伴う周産期医療へ

2013年5月、香川小児病院は同じ機構病院であ る善通寺病院と統合され、「四国こどもとおとなの医 療センター」が誕生します。センター内には中国四 国地方最大級で最新の設備を持つ総合周産期母 子医療センターもオープンします。

現在の体制では残念ながら合併症のある妊婦さ んには対応できません。たとえば、糖尿病のママか ら生まれた赤ちゃんは低血糖になりやすく、高血圧 のママから生まれた子は将来、生活習慣病になりや すい傾向がありますが、新病院では新生児や小児 だけでなく、既往症を抱えた妊婦さんも診療できる。 成育医療も含めた高度で幅広い周産期医療ができ ると期待しています。

私の持論はクリエイティブな視点がなければ医療 は向上しないということです。臨床で求められている ことをやらないと良い研究にはならないし、研究をす



れば臨床に対する造詣が深まります。私自身は両方 に関わっていきたいですね。

研修医のみなさんにはぜひ好きなジャンルを見つ けて、その分野でがんばってほしい。人間は好きな ものに対してなら夢中になれるし、困難があっても乗 り越えられるものです。私がずっと小児科を歩んでき たのも、子どもに対しては一生懸命になれる。どんな 汚物にまみれてもかまわないと思えたからです。周 囲を見渡しても本当に子どもの好きな人たちが多い

周産期医療で重要なのはチーム医療です。産 婦人科のドクター、看護師、地域医療連携室のス タッフ、保健師さんなどの協力がなければ絶対に成 り立ちません。一生懸命がんばってくださるみなさん にこの場を借りてあらためて感謝します。本当にいつ もありがとうございます!



(若手医師コメント)

患者さんと真摯に向き合うことで 自分のスキルアップにつなげてほしい

佐賀病院 小児科 七条了宣

大学病院で2年間研修、小児科の医師 として勤務するようになって約10ヵ月になりま す。大学では上級医の指導のもとにじっくり 研究に取り組む感じでしたが、主治医として 患者さんに接する立場になり、非常にやりが いを感じています。肺炎、気管支炎、下痢 など多彩な症例をこなすようになったのでか なり鍛えられました。

少子化が問題になる一方、現場では未 熟児が増えています。背景としては高齢出 産のほか、ダイエットなどでやせているお母 さんが少なくありません。母体がしっかりして いないと赤ちゃんが十分育たずに生まれてし まう。治療が必要な新生児が年々増加して いるという印象です。

未熟児の可能性はある程度事前にわか るケースも多いので、最初は不安にならない ようにゆっくりお話して気持ちの整理をしてい ただき、一緒にがんばっていきましょうと伝え ます。出産後はなるべくカンガルーケアをす るなど、母子分離の弊害が出ない配慮をし ています。離れている期間が長いと赤ちゃ んへの愛着が湧かず、その後の虐待にも つながりかねません。限られた面会時間の 中で赤ちゃんと触れあう機会を持ったり、看 護師がお母さんとの交換日記で毎日の様子 を知らせたり、コミュニケーションを密にして チーム医療で取り組んでいます。

医療の現場で大切なのはやる気と情熱で す。何にでも挑戦する気持ちを持つこと。 そして1人1人の患者さんときちんと向き合っ てベストを尽くすこと。患者さんとの関わりを 通して自分自身のスキルアップに結びつけて ください。



佐賀病院総合周産期母子医療センター DATA 独立行政法人 国立病院機構 佐賀病院 総合周産期母子医療センター

〒849-8577 佐賀県佐賀市日の出1-20-1 TEL (0952) 30-7141 (代) FAX (0952) 30-1866 http://www.saga-hosp.jp/center/

1階 小児科、小児科外来、産科、婦人科

- ス病棟54床、MFICU6床、お産室2室、LDR室1室

3階 NICU12床、GCU24床、小児病棟16床

Second			Т									北泊	道·	· 東	比							Т											関	東・	甲信	言越											_
Company			北海道かん	七寿宣がし	北毎道医寮	- 11	医	帯広	八雲	弘力	八三	島	花巻	釜石	岩手	山台医療	西多賀	あきた	山形	米沢	福島	水戸医療	因	茨城東	栃木	宮総合医		西群馬	<u> </u>	東埼玉	千葉医療	千葉東	下総精神医療	東京医療	災害医療	東京	村山医療	療Ⅱ	医	相模原	神奈川	西新潟中央	新潟	甲府	と	信州上田医療	諸高原
Cartifornia						0 (0		-	0										-	+	0			0			0	0 0			0				0						00		H) C	F
The content of the		日本形成外科学会	Ŧ		-		7	7					F				+			4	+	F)							(0	+			H	+	\blacksquare)	F
Part		日本外科学会		_				0		Ō						5	1			1	+		0	\sim	\sim	ΟŎ	-	0	ŌĊ	44	\sim	\sim \perp			0	0	0	0			0		+		Č		
The property The		日本脳神経外科学会	Ť	1							+					0						ŏ		-	Ŏ	Ŏ	-	(Ō C		Ŏ			C	Ō		- (Ō		Ō		0					
Company Comp	本	日本精神神経学会	I	(_						+		0		()						+=	Ľ			0					Ō	_		С)		(0	0				C				0
日本の大学研究	領域	日本産婦人科学会 日本耳鼻科学会		_	+			\dashv			+									- (0		0	0		(+					(
Post			_	_				\dashv	\rightarrow	_	+	+	+				+			\dashv	+	0	0		0	0		(0	+			0	0	0	+			\vdash	+	\mathbf{H}		_	H
日本語の		日本麻酔科学会						0			\mp	Ŧ	F							-		0			0	0	Ĭ	(+			0	0	0				H	Ŧ	\Box	C		F
Teaching		日本救急医学会	1		3	1		#	1		#	ŧ	ŧ			\sim $+$	+					0			0	0						#					-	=				Ħ		\Box			
日本経済が全体		日本リハビリテーション医学会									<u> </u>								0																	Ö								0			
日本の政治学者		日本糖尿病学会	t	((t			0			(0	0												H)	
日本の報告等					0			+			+						+					0	0		0	0						+				0	(\vdash				_	-	
지 프로젝트 전	サブ		+		1	-	1	+	+	+	+	+	+		_	\sim				1	+			Н	+	0						1			+=	0	(1	+		_				+		-
### 1	えべ	日本リウマチ学会	Ŧ	(-		4	4	\mp	\mp	(-			-		-	+	F		Н	4		Н	-)		0	(0	0		0	F	H	+	\blacksquare	-	F	F
## 1	ヤ	日本呼吸器学会) (9	7	1		#	C					Ŧ		0	7	Ŧ	0	0	0		0	0	0		0		0	+	Ō	0	0	7		_	0	$+\sim$		Ŧ	\Box	1	С	=
日本70以上一学会		日本腎臓学会	ŧ		2					#	#														ŏ							0			0		_	_			Ō						
日本野産の経験的学会	イ 一 四	日本アレルギー学会	1			- (1											Ĭ	Ŭ			Ō						0)	ŏ				Ō	0			Ħ		Č	
本部の機能性が表現では、	域	日本心臓血管外科学会			5				1	\pm	\pm	$^{+}$			Ò	5									\circ	Ō								С	0		(Ō		Ť	Ė			\Box	Ť		
□ 日本党 (日本学校 日本学校 日本学校 日本学校 日本学校 日本学校 日本学校 日本学校		日本血管外科学会					\sim $+$	\sim \perp	+	\pm	\pm	\pm	\pm				\pm			\pm	\pm					00						9	\pm			0							\pm	\coprod			
日本の情報的を対す		日本小児外科学会 日本東洋医学会	+	+	+	+	+	\dashv	+	+	+	+	+				5			\dashv		+		Н				+	+			+	+	+			-	+	+	+	H	\vdash	+	H		+	F
日本大阪門門でき 日本大阪門門でき 日本大阪門門でき 日本大阪門門でき 日本大阪門のでき		日本消化器内視鏡学会				1	4	-	-		+	+				-	-	-				0	0	Н	0	0		(\sim		0	\dashv	+			0	_	\sim $+$	-			\blacksquare	+		C) C	\blacksquare
日本の原文字表 日本人類和信文章 日本の展文字表 日本の日本の展文字表 日本の展文字表 日本の展文を表		日本気管食道学会	ŧ					1		Ĭ	+	+				5	1				1	F			0			ľ	_			1		Ŏ			ď	_		Ŏ		Ħ		Н			F
日本任極所受容 日本技術的で含 日本技術的で含 日本技術的で表 日本技術的で表 日本技術の変 日本技術ので表 日本技術の変 日本技術ので表 日本技術の変 日本技術ので表 日本技術の変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術を変 日本技術の変 日本技術を		日本小児神経学会	ŧ					-												0		L												Ĭ						Ĭ							
日本経過形形 (日本生殖医学会	t	1	1	1	1			#	\pm																					1	1											\Box			
日本年の後受了会 日本部域的情報等 日本語域的情報等 日本語域的情報			\pm		\pm			- 1		\pm	\pm	\pm)	\pm			\pm	\pm										0	\pm				0	\pm			\pm			\pm			+	
日本選索及整理会 日本運動性学会 日本運動性学会 日本運動性学会 日本政师教学会 日本政师学会 日本教学会 日本教学会 日本教学会 日本教学会 日本教学会 日本教学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会 日本教学学会			+		1	+	+	+	+	+	+	+	+	Н	+	+	+	+	Н	+	+	+	\vdash	Н	+	+	Н	+	+	+	Н	+	+	10			+	+	+	10	\vdash	\forall	+	++	+	+	Н
日本権政務等分合 日本経験技術等合 日本経験技術等合 日本経験技術等合 日本技術等分 日本大学の 日		※1 日本輸血細胞治療学会	Ŧ	Ŧ	\mp	4	\exists	\exists	\exists	\mp	\mp	\mp	F)	\mp			\dashv	+	F		Н				\dashv	+			\exists	\mp	+	0	0	\exists	\exists	\mp	+	F	H	\mp	\blacksquare	+	F	F
日本本部学会		日本臨床薬理学会	Ŧ	1	7	1	4	-	1	\mp	+	Ŧ	F		1		+			-	+	F										\dashv								+	F	H		\Box			F
機 日本報告解判性を受 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		日本病態栄養学会	ŧ				1																																		F						F
本本版画版学会	機	日本臨床腫瘍学会	C					1		1	+	t	F			1	t			1	Ť	t		0		0		0						C	+~	0				t	Ħ						Ħ
本本版画版学会	一	日本アフェレシス学会	#		1					\pm	#						#															\pm	+										+				
日本可称字会 日本不明形式	屋の	日本臨床細胞学会	\pm	+	+			1	+	\pm	\pm					1							0		0			(\pm								-		\pm	\Box)
日本でのションディアン学会 日本が極端を直答の方面学会 日本が優秀会 日本が優秀会 日本が多さ 日本がのおります。 日本が日本がらからできる 日本が日本がらからできる 日本が日本がらからできる 日本が日本が日本がらからできる 日本が日本が日本が日本がらからできる 日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日本が日	学会	日本心療内科学会 日本放射線腫瘍学会			(+	\pm	+	\pm	+	+				+				1	+	+										\pm				0				+				+			
日本科解除分全 日本科解除学会 日本科用化学会 日本科用格学会 日本科			+	(1	1	-	+	+	+	+	-		+		+			-		+			-	+		-				+	+	+			+	-	+	-	H		+	+		-	H
日本新爾密外科学会 日本人間下少字学会 日本経過程学会 日本第四外科学会 日本100年/第四分学会 日本第四学会 日本第四学会 日本第四学会 日本第四学会 日本100年/第四分学会 日本第四学会 日本那回学会 日本那回学会 日本那回学会		日本インターベンションラジオロジー学会	Ž		7		1	4	1	+	+	+								4		H										4								0	F	H		\blacksquare			F
日本人間下ック学会 日本年の外科学会 日本年の外科学会 日本項の子会 日本項の子会 日本項の子会 日本項の子会 日本項の子会 日本項の子会 日本項の子の一つ 日本の道を子会 日本の道を子会 日本国の子会 日本国の子会 日本項の子会 日本国の子会 日本		日本肝膵胆外科学会	Ŧ		7	1	1	1	1	1	+	+			Ò	5				1		0										1			0		(0			F	H		Ħ			F
日本年の外科学会 日本常価圧学会 日本常価圧学会 日本が人が19世紀学会 日本が19世紀 日本が大学会 日本が19世紀学会 日本のでが19世紀学会 日本のでが19世紀できる 「「「「「「「「「「「「「「「「」」」」」 「「「「」」」」 「「「」」」 「「」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」 「「」 「「」」 「「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「		日本人間ドック学会	Ŧ	ľ	1	1	1	7	1	#	#	T	F		1		#					F			4							7	1	Ŧ						Ŧ	F	H		H		F	Ε
日本版八利服選挙会 日本版八和服選挙会 日本が日本の中で会 日本が日本の中で会 日本が日本の中で会 日本が日本の中で会 日本が日本の中で会 日本の中で会		日本手の外科学会				#		#		#	#	+			(2	#				#	Þ										#	+	t			1					Ħ	#	\Box		t	Ε
日本場所を含金		日本高血圧学会																																+				1									Ħ
日本プライマリケア連合学会 日本心電イクーベンション海学会 日本商が小学会 日本度が分学会 日本度が分学会 日本度が外学会 日本原政院内貌学会 日本原政院大学会 日本のでは、日本原政院大学会 日本のでは、日本原政院大学会 日本のでは、		日本婦人科腫瘍学会			(+				1	1				1						0								1													Ħ
日本心能イグターペンション治療学会 日本育が小学会 日本育が小学会 日本の関係対視鏡学会 日本の関係対視鏡学会 日本呼吸療法学会 日本呼吸療法学会 日本現境感染学会 日本認知症学会 日本認知症学会 日本彫野学会 日本彫野学会 日本彫野学会 日本彫野学会 日本彫野学会 日本北野学会 日本北野医療学会 日本北野学会 日本北野医療学会 日本北野学会		日本プライマリケア連合学会	Ž)		(\exists	1											1						0		(0		+		_	_			1								l	H
日本度選学会			<u> </u>		(\exists		\pm	\pm	+				ł				\exists	+	+				0						\pm										Ш		\Box			H
日本口腔外科学会 日本呼吸療法学会 日本現体形児学会 日本環境感染学会 日本認知症学会 日本距離学会 日本距離学会 日本部人治療学会 日本総和医療学会 日本総和医療学会 日本総和医療学会 日本総和医療学会 日本総和医療学会 日本を作補体医学会 「小児面液・がん学会 日本年精神医学会 「小児面液・がん学会 日本部社族学会 日本平状腺学会 日本平状腺学会 日本平状腺学会 日本平状腺学会 日本の書学会 日本平状腺学会 日本の書学会			Ŧ	+	+		\dashv	\dashv	+	+	+	+	+			+	+			-		+						1				\dashv	+				-	\dashv	+	+	H	\mathbf{H}	+	H			P
日本呼吸療法学会 日本環境原染学会 日本認知症学会 日本認知症学会 日本能賦学会 日本が心治療学会 日本が心治療学会 日本が心治療学会 日本が心治療学会 日本総和医療学会 日本総和医療学会 日本必利医療学会 日本北沙長学会 日本北ヶ原学会 日本北沙長学会 日本北沙長学会 日本北沙長学会 日本北沙長学会 日本外科原染金		※2 日本呼吸器内視鏡学会	Ŧ	(9	7	-		\mp	+	F				+			4	+	H		0	4	0				0		0	+			0	4	7	+	Ŧ	0		+	\Box		C	
日本環境感染学会 日本認知症学会 日本睡期学会 日本地測学会 日本がん治療学会 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		日本呼吸療法学会	Ŧ	1	7	1	7	-	9	#	#	Ŧ	F			1	Ŧ			7	Ŧ	F	Ĭ	П			П					7	Ŧ	Ĭ	F		7	7	+	Ŧ	F	H	Ŧ	\Box	+	Ĭ	F
日本肥海学会 日本能の公司会 日本能の公司会 日本能の公司会 日本能の公司会 静脈経腸栄養学会 日本総和医療学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本心身医学会 日本化・明神医学会 小児血液・がん学会 日本教稿学会 日本教稿学会 日本教稿学会 日本教稿学会 日本教稿学会 日本教稿学会 日本和通学会 日本和列爾宗在 日本を経済学会 日本和通学会 日本和通学会 日本和列爾宗在 日本教育学会 日本和列爾宗在 日本教育学会 日本和通学会 日本和列爾宗在 日本教育学会 日本和列爾宗在 日本教育学会 日本和		日本環境感染学会	‡		#		1	#	1	#	#		t		1	#	#			1		Ħ							1			#					#	1		+				\Box			Ħ
を 静脈経腸米養学会 日本庭療学会 日本総和医療学会 日本心別医学会 マンモグラフィー学会 日本心別医学会 リリ児血液・が心学会 日本常精神医学会 リリ児血液・が心学会 日本常野学会 日本常野学会 日本常野学会 日本常野学会 日本本の電学会 日本小電学会 日本心電学会 ○ <td< td=""><td></td><td>日本肥満学会</td><td>ŧ</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Ħ</td><td></td><td></td><td>Ħ</td></td<>		日本肥満学会	ŧ		1					1	1															0						1												Ħ			Ħ
### Table 1	そ	日本がん治療学会						0								1									0	00			0						0	0				0							
日本版和医療子芸 日本の別医学会	0	在宅医療学会	1	+	(+									1	1		0					_		0		1										0		H			
他 マンモグラフィー学会 日本老年精神医学会 小児面液・がん学会 日本教傷学会 日本不整脈学会 日本不整脈学会 日本小電学会 日本ル電学会 日本外科感染症学会		日本心身医学会	F	f	-	-					H	H	H			J						H																								F	H
	他	マンモグラフィー学会	F	Ŧ	(1		+	+	F				Ŧ	+				Ŧ	F			0		H					1								0				H			F
日本甲状腺学会 日本不整脈学会 日本心電学会 日本胆道学会 日本外科感染症学会		小児血液・がん学会	Ŧ	1		1				1	Ŧ	Ī				ļ						F												F												F	F
日本心電学会 日本胆道学会 日本外科感染症学会		日本甲状腺学会	1	1	1	(1																															Ħ
日本外科感染症学会		日本心電学会	1	1		1										1																															Ħ
		日本外科感染症学会	+	1	(+	1				1												1						f				1								f	Ħ
日本育権行動物子会		日本脊椎脊髄病学会 日本脊髄外科学会	1	1	1	1					\pm	ł			(_					\pm											1	\pm	\perp						\perp				H		l	Н

※1:旧日本輸血学会 ※2:旧日本気管支学会

東海・北陸 天竜 静岡医療 東名古屋 金医七石 -央医療 神経医

Special 研修情報:呼吸器セミナー

呼吸器セミナ-

2012年6月16日、近畿中央胸部疾患センターで「呼吸器セミナー」が開催されました。卒後10年未満 の若手医師を対象としたもので、今回が5回目。日常診療の疑問から専門的な内容まで、呼吸器診療 の最前線で活躍する4人の講師による密度の濃いプログラムでした。



〈セミナー概要〉

開催:2012年6月16日(土)

会場:近畿中央胸部疾患センター研修棟

対象:卒後10年目未満の研修医、専修医(定員20名)

内容

◆プログラム1 「呼吸器疾患は、多彩な陰影を示す」

- ◆プログラム2 「肺結核:日常臨床とピットフォール」
- ◆プログラム3 「びまん性肺疾患の臨床:難しいが故に面白い」
- ◆プログラム4 「人工呼吸管理:呼吸器内科としてのOpen Ling Strategy

講師の声1



▲プログラム1 「呼吸器疾患は、多彩な陰影を示す」担当 一般病院では見かけない まれな疾患の画像を公開

近畿中央胸部疾患センター 放射線科 大隈智尚

今回は若手のみなさんに理解しやすいよう、ス ライドの数を減らし、画像診断医が日々どういう考 えで診断しているかを中心にお伝えしました。内 科や外科の先生とは視点が違いますが、補完し あいながら連携していきたいと思っています。

日本では放射線科の専門医は6000人未満。 CTやMRIの台数が非常に多いのに比べて放射 線科医は3倍足りないと言われています。専門医不 在の病院も少なくないので、研修医の方々ににはぜ ひ放射線科に興味をもっていただきたいですね。



プログラム 2 「肺結核:日常臨床とピットフォール」担当 怖がらず、甘く見過ぎず 正しい結核の知識を 身につける

近畿中央胸部疾患センタ 感染症内科 露口一成

結核は感染症ということもあり、怖いと思われが ちな病気です。しかし、インフルエンザと比べて非 常に感染性が高いわけでもなく、呼吸器疾患の中 では薬できっちり治癒しうる数少ない病気です。感 染対策さえ適切におこなえば専門病院だけでなく、 一般病院でも十分に診療が可能な肺炎の一種と いう意識に変えていければと思っています。今回の セミナーで基本的な診断方法を知り、正しい知識 を身に付けて、結核に対する恐怖感を少しでも払 拭してもらえればと願っています。

講師の声3

◆プログラム3 「びまん性肺疾患の臨床: 難しいが故に面白い」担当

NSIPとIPF/UIPを軸に びまん性肺疾患を読み解く

近畿中央胸部疾患センター 呼吸器科 新井徹

びまん性肺疾患は肺がんなどと比べると頻度の 低い病気ですが、呼吸器疾患そのものに興味を 抱くきっかけになればと思い、今回のテーマに取り 上げました。呼吸器科は地味な印象があり、華々 しさにこそかけますが、近年は肺がん治療にも新 薬が続々と登場し、興味深いジャンルです。

医師は目の前の患者さんとしっかり向き合い、 深く学んでいくことで、知識と技能が身につく仕事 です。研修医のみなさんには、日々の臨床活動 を大事にして経験を積み重ねて欲しいですね。

講師の声4



◆プログラム 4 「人工呼吸管理:呼吸器内科としての Open Ling Strategy」担当

呼吸器内科医に必須の リクルートメント手技、 APRVを解説

近畿中央胸部疾患センター 内科 西山昭秀

重症の呼吸不全に対して人工呼吸を使った集 中治療は欠かせないものです。しかし、最近は ICUにまかせてしまう傾向が強くなってきました。 欧米では内科医が集中治療医的な立場で診療し ています。呼吸器疾患であれば、病気を一番わ かっているのは呼吸器内科医でしょう。集中治療 にも対応できる呼吸器内科医を増やしていけたら と考えています。専門性は大事ですが、得意分 野の臓器だけを診るのではなく、幅広い視点で 診療することを心がけて欲しいと思います。

参加者の声



呼吸器疾患の専門医の お話がうかがえる 貴重な機会でした

京都医療センター 呼吸器内科 小林岳彦

初回に参加した時、非常に勉強になったので、 毎回参加したかったのですが、都合が合わず、 ようやく実現しました。今回は結核とびまん性肺疾 患の講義に興味を引かれて参加しました。特に びまん性肺疾患は日常診療において大変悩ましい 疾患で診断も難しく、間質性肺疾患を専門にな さっている先生のお話はとても参考になりました。

医師としては現在7年目でまだまだこれからです が、地域の呼吸器科診療のレベルアップに貢献 できる医師をめざしたいと考えています。

注意事項

- 1) 表記に関しては日本専門医制評価・認定機構の分類に則っています。
- 2) 専門医取得に際し、学会が認定した基幹施設において一定期間の修練が必須となる学会が あります。施設類型に関しては機構本部もしくは各施設にお問い合わせください。

		淖	ま	沭	姕	賣	宇	舞屋	j 哲ラ			畿 大	抽加	5 5	后:	奈ド	声	和	自山	K #/	近	岡南	티므	福			・四日		柳戸	巨海	喜	* *	ш	愛宣	1/1	 	ъI:	福 -	大垣	徒	田田	彦
		并	あわら	滋賀	楽	示都医療	宇多野り	舞鶴医療	有京都		が根山	大阪南医療	神戸医療	光庫青野原	兵庫中央	奈良医療	南和歌山医療	歌山:	鳥取医療	松江医療	浜田医療	医口	原	医療	広島西医療 東広島医療	神	関門医療 山口宇部医療	療	柳井医療	徳島	松医療	* 香川小児	四国がん	愛媛	小倉医療	八州がん	九州医療	周月	大 全 田 に 原 に 原		肥前精神医療	
ļ	日本内科学会	+		0	-	0	0	0		息		0	0 0		0		0					0			00		00	0	0	00	0	0 0	0	00	0	0	0		0 0			
	日本皮膚科学会 日本形成外科学会	t		F		ŏ			1												0	Ó	0	0				ŏ			_	0	0				Ŏ	#	Ĭ	0		Ę
	日本小児科学会 日本外科学会	C		0			0				\sim	\sim					0	0			0	0			0		00	8				0 0 C	0	00		0		9		Ō		C
ŀ	日本整形外科学会 日本脳神経外科学会										\sim	0					8	Н			0	8	0	0		1 ~ 1		0		10)	00		-	0	+				H
	日本泌尿器学会	F				Ŏ	- (Ŏ			-	_	ŏč				Ĭ				Ŏ	Ŏ	Ō	Ō	OŎ		Ö	Ō				<u>ŏ</u> c	0	С		0			Ť	0		F
	日本精神神経学会 日本産婦人科学会	t				Ō	,					0						ď			0		0	0		Ĭ		0		t			0	C	ŏ		Ŏ	#		0		
ŀ	日本耳鼻科学会 日本眼科学会	╀	+		-	0				_		0			++	+	+	\vdash	+	+	0	8	0	Н	10	Н		0	\vdash	+		0 0				0		+	+			H
ŀ	日本医学放射線学会 日本麻酔科学会	F				0	H					0					0					0			00			0						Š		0		#	C	Ō		F
ŀ	日本臨床検査医学会	t							Ò								ŏ			1			Ŏ		Ĭ			Ĭ									Ĭ	\pm				
ŀ	日本救急医学会 日本病理学会	\vdash									0	0					0		+		0	0	0	0	0			0				0 0		C			0	\pm				H
	日本リハビリテーション医学会 日本内分泌学会	F						+			0	0							+)		+						0			-				\mp	-			F
ŀ	日本糖尿病学会	F				Ŏ			Č			0			0						0	0	0									C)		Ŏ	-	Ŏ		C	Ŏ		(
ŀ	日本血液学会 日本消化器病学会	t				0						0			0		ŏ				0	ŏ	0	0	00		0	0				0		00	ŏ	Ŏ						L
ŀ	日本肝臓病学会 日本神経学会	╁	+		Н	0				4	0	0	+	+							0	0		Н	00	Н	0	10				+	0	0	10		4	+				H
ŀ	日本リウマチ学会 日本老年医学会	C	0								Ō	0	C				Ē	H	1	Ē				П	#					Ť		-	H	-	F		0		Ŧ	F		F
ŀ	日本呼吸器学会	t		0		0		_	50	0					101			0			0	0		0	0					İ	0		0	00	0		0	o c		0	Ĭ	(
ŀ	日本感染症学会 日本腎臓学会	╁		\vdash	Н		Н	+	- 1 -			0)		+	+	Н	+	+	Н	0	0		+	Н	_	\vdash		+	H				╁	Н		9				(
ŀ	日本循環器学会 日本アレルギー学会	F						0				0	0 0		0			0			0	0	0	0	00			0			0	0 0)	00)		0		C			(
ŀ	日本消化器外科学会	С		0		O	(0			\sim	Ö	00		0		ŏ		C		0	Ŏ	0	0	0			O			П	ŏ	0		0	0		\downarrow	С	0		F
	日本心臓血管外科学会 日本呼吸器外科学会	C		0		0					0		C		0		0	0			0	0					C				Ħ		0	С	0	-	0	0				L
	日本血管外科学会 日本小児外科学会	H			H		H	+)		0	+			+		\mathbb{H}	+	+	H	0	0			H		0		+		0			0		0	+				F
ŀ	日本東洋医学会日本消化器内視鏡学会	F						1				0											0															#				Ē
	日本周産期新生児学会	t				ŏ	(-			0				Ľ					ŏ	Ŏ				ŏ	ŏ		1		0		Č	ŏ	+	ŏ	士		ŏ		L
	日本気管食道学会 日本大腸肛門病学会	╁						+									10		+				0	0						+			0		+		+	+	-	+		H
	日本小児神経学会 日本心身医学会	F					0											Н													H	0			0		=	0				F
ŀ	日本生殖医学会	t																																	L			1				İ
ŀ	日本人類遺伝学会 日本超音波医学会	╁						+				0					+	H	+	+	H	0		Н	+					+	Н				╁		+	+	+			H
ŀ	日本核医学会 日本集中治療医学会	F			-	0	\vdash	+								+	+	\vdash	+	+		0		0	+		_	0		+	\blacksquare	С	0	0	\vdash		9	+	+	\vdash		F
ŀ	※1 日本輸血細胞治療学会	F				Ĭ		1	1										#		0	ŏ						Ĭ							F		#	\mp		F		F
ŀ	日本温泉気候物理医学会 日本臨床薬理学会	L						+	t																										t			\pm				L
ŀ	日本産業衛生学会日本病態栄養学会	\vdash						+											+				-		+					+		+		-	\vdash		+	+				H
ŀ	日本透析医学会日本臨床腫瘍学会	F										0										0										С					4	#	С			F
ŀ	日本総合病院精神医学会	t																																	t			\pm				L
ŀ	日本アフェレシス学会 日本脳卒中学会	╁					(1								+	0	H	+	+	H	0		Н	+					+	Н				H		1	+	+			H
	日本臨床細胞学会 日本心療内科学会	F			Н	0	Н	+			0		0 0			+	0	H			0		0	П	0	Н		F		+	Н	С	0		0	Н	0	\mp		F		F
	日本放射線腫瘍学会	t						#					C						$^{+}$											İ			ŏ		Ħ		0	\pm		t		ļ
ļ	日本頭痛学会 日本てんかん学会	L		0				+	t																										t			\pm				L
	日本インターベンションラジオロジー学会 日本脳神経血管内治療学会	\vdash						+				0						\Box	+		Н		0	0							\blacksquare				\vdash	Н	\dashv	+	-			H
ŀ	日本肝膵胆外科学会 日本脈管学会	F				0		1														0		0				0					0				0	#				F
ŀ	日本人間ドック学会	t																																				\pm				L
1	日本総合健診医学会 日本手の外科学会	H		H				+	+									H			H						0				H	\perp			\vdash		+	+		\vdash		-
	日本乳癌学会 日本高血圧学会	F	F		П	0	H	Ŧ	(0				Ŧ	Ō	H	(0	0	0	0		П		0		4	H	Ŧ	0		0	П	1	+	Ŧ	0	F	F
ŀ	日本ペインクリニック学会日本婦人科腫瘍学会	F																					0												Ĭ		0	#				F
ŀ	日本頭頸部外科学会					0		1															Ŭ								Н						Ŏ	#				
	日本プライマリケア連合学会 日本小児循環器学会				H							0			0		0				0		0	0		H						0	0		0	\square	0	+		0		H
	日本心血管インターペンション治療学会日本胃がん学会	F						1				0	C									0	0											0	Ĺ		0	1	С			F
	日本食道学会									1																							0		-			#	1-			Ĺ
	※2 日本呼吸器内視鏡学会 日本口腔外科学会			0							0	0			0							0	0)				0	0)		L
	日本呼吸療法学会 日本母体胎児学会	F		F	H		H	-							\prod			\blacksquare	+		H					H					H				F	H	\perp	+				f
	日本環境感染学会日本認知症学会	F				0		1														0										T			F			1,	0			É
	日本肥満学会	ĺ				0		1														0	0			Н					Н				0							İ
	日本睡眠学会 日本がん治療学会	H			H					H	0										0		0			H					H		0									F
	静脈経腸栄養学会 在宅医療学会	F	F					T			Ō	Ħ	Ŧ	F		Ŧ	0	0	Ŧ	F	Ō	Ŧ	F		T		T			С		T			Ō		Ō	Ŧ	Ŧ	0		F
ŀ	日本緩和医療学会	С				0		1		0	0												0	0			C				Ħ	T	Ŏ					\downarrow		0		Ĺ
ŀ	日本心身医学会 マンモグラフィー学会											0																					0				0					t
ľ	日本老年精神医学会 小児血液・がん学会	F	F					Ŧ	Ŧ	F		H	Ŧ	F					Ŧ	F	H		F							F	H	Ŧ			F		1	1	Ŧ	F		f
ŀ	日本熱傷学会							1																							Ħ				F			#				É
ŀ	日本甲状腺学会 日本不整脈学会							1																							Ħ						0	\pm				t
ŀ	日本心電学会 日本胆道学会	F			H		H	-				$-\mathbb{I}$			$+\mathbb{T}$			H	-	+				H		H				+	H				F	H	0	+				É
ŀ	日本外科感染症学会					0																											П					#				Ĺ
ŀ	日本脊椎脊髓病学会																																									

[|] 日本背極が杯子云 * 2013年4月合併し、「四国こどもとおとなの医療センター」として新築移転の予定 * 1: 旧日本輸血学会 * 2: 旧日本気管支学会

_	カ		州	4													
長					芴	能	+	뫼	퓼	空	郏	空	庶	指	南	油	菘
長崎	長崎医療	長崎川棚医療	熊本医療	熊本南	菊池	熊本再春荘	大分医療	別府医療	西別府	宮崎東	都城	宮崎	鹿児島医療	指宿	南九州	沖縄	琉球
	医安	加	医安	南		再奏	医安	医安	府	東			島匠		州		
	7京	医	/京			莊	7京	7京					療				
		療															
	0	0	0			0	0	0		0			0		0	0	
0	0	_	0					0	_	_	_	_	_	_			_
$\overline{\bigcirc}$	0		0	0		0	0	0	0								
	Ŏ	0	Ŏ	Ŏ		Ŏ	Ŏ	0	Ĭ	0	0		0	0	0	0	
0	0	0	0			0	0	0			0	0					
		\circ	$\frac{\circ}{\circ}$				0	0					00	0			
	Ö						0				0		0	0			0
	Ŏ		0					0			0		0				
	0		_					0			0		0				
	$\frac{\circ}{\circ}$	_	$\frac{\circ}{\circ}$					0						_		0	_
	Ö		0	0		0	0	0			0		0		0	0	
			Ŭ			Ŭ		Ŭ									
	0		0					0									
	\circ	\circ	0			\circ	0	0					0	_			_
	0		0														
			0										0				
	0		0										\circ				
0	0		0	0			0	0					\circ				
	ŏ	0	ŏ	ŏ		0		ŏ	0	0			0	0	0	0	
	0		0			0		0			0						
	0																
	0	00	U	0		0	0	0	0	00					0	0	
	ŏ		0														
	Ō	0	Ō					0					0	0			
										0							
	0		0			0	0	0			0		0	0			
	Ö	0		0		0	0	0							0	0	
	Ó		0	Ĺ		Ĺ	Ĺ						0		Ĺ		
	0	_					0							_			_
_	0							0									
0									0						0		
_																	
	0		0											0			
_		_						0						_			_
	0		0														
_	0																
_	Ŏ		0					0									
	0		0			0											
_	0		0														
_	0		5														_
	0		0					0			0						
	0																
_	\circ	_											0	_			_
	0																
	0																
	0																
	U																
			0														
				0				0			0						
	000		0							0			0				
	Ó																
			0														
		0	0														
	000												00				
	0		0										0				
	0		0			0									0	0	
			ŏ														
													0	0			
					0												
					Ĺ								0				
	0		0			00		0					00			0	
	0															0	
	0																
	0				0												
					U												
	0																
	Ó																

Special 研修情報:精神科レジデントフォーラム

第1回NHO 精神科レジデントフォーラム

2012 年 7 月 27·28 日の 2 日間にわたり、国立病院機構本部講堂で「第 1 回 NHO 精神科レジデントフォー ラム」が開催されました。機構病院の中でも精神科医療を専門とする 13 施設で研修中の若手医師の研 修成果を発表し、特別講演を加えた充実のプログラム。精神科に携わる人々の情報交換と交流を図る 初めての試みでした。



〈フォーラム概要〉

開催:2012年7月27日(金)・(土)

会場:国立病院機構本部講堂(東京医療センター敷地内)

対象:医学生(定員30名)、初期·後期臨床研修医、精 神科臨床経験5年以下の医師

各日定員100名(1日だけの参加も可能)

プログラム:

1日目 ◆後期研修医&レジデント研修成発表会1

- ◆特別講演1「医療観察法医療と精神鑑定」 琉球病院院長 村上優
- ◆特別講演2「自閉症スペクトラム障害~子どもから大 人までの発達過程 |

国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法 ヤンター長 大野豊

- ◆NHO施設紹介1
- ◆研修医・レジデント交流会(於:フロラシオン青山)

2日目 ◆後期研修医&レジデント研修成発表会2

- ◆特別講演3「うつ病の認知療法・認知行動療法の意義」 国立精神・神経医療研究センター 大野裕
- ◆NHOでの精神科臨床研修の意義(レジデントOB)
- ◆NHO施設紹介2
- ◆特別講演4「劇的な精神分析入門」 北山精神分析室 北山修
- ◆後期研修医&レジデント優秀発表表彰



国立病院機構の 精神科ネットワークの 研修成果発表と 人材交流を図る

肥前精神医療センター

現在、国立病院機構の精神科の施設はテレビ 会議でつながっています。ネットワークのスケールメ リットを活かし、共同で利用できる教育プログラムを 策定したことで研修医およびそれ以前の方々が機 構病院の中で数多く研修されるようになりました。 その研修成果を発表し、おたがいが刺激になる 機会を設け、外部にもアピールしたいという趣旨で 今回のフォーラムを開催しました。

国立病院機構は、研究的な要素の強い大学 病院とは違い、臨床研修が強みです。そこで特 別講演にも、豊富な臨床経験に基づいて日本の 精神医学に貢献されている 4 人の先生をお招きし ました。

機構病院ならではの教育システムや多彩な施設

も今回初めてご紹介。全国の精神科医療の情報 を活用できるメリットを知っていただく貴重な機会で した。精神科同士の横のつながりが生まれるチャ ンスにもなったのではないかと思います。みなさん には好奇心を大切に、自分から学ぶ姿勢を持って もらいたい。臨床現場で積極的に問題解決でき、 責任が取れる人材に育ってほしいですね。



日米両方の ネットワークから学び 国際的に活躍する 精神科医をめざしたい

肥前精神医療センター 精神科 久我弘典

若手医師が国際的な視点で活躍していくにはと いうテーマで発表しました NHO のネットワークは広 く、多彩な経験が積めますが、臨床中心の研修 を国際学会で発表する時にどんな点に注意すべき か、学ぶ機会が少ないと感じています。

12 月からは VA 留学に派遣されるので、精神 科の研修制度やアメリカで進んでいる PTSD の分 野、そして電子カルテの導入などで VA 間同士 がつながるネットワークシステムを学びたいですね。 他文化間精神医学に興味があるので、国際的に 活躍できる医師になれればいいなと考えています。

今回は精神医学のトップクラスである先生方の 特別講演も聞けましたし、他病院の研修医とも交 流でき、大変有意義なフォーラムでした。



日本全国の経験と知識を 吸収しながら 地域医療に貢献していきたい

花巻病院 精神科 有用編理

今回は 1 年半関わってきた触法精神障害者の 症例について発表しました。2005年に施行された 「心身喪失者等医療観察法」という新しい法律に 基づく司法病棟におけるやや特殊な例です。私 は3年前に内科から転科しましたが、精神科の場 合、患者さんの症状が一進一退で迷いの森に入っ ていくような時期もあり、上級医の先生やコメディカ ルの方々と協力しながら今までにない経験をさせて もらったと非常に感謝しています。

北海道や九州・沖縄、震災の翌年ということで 被災地からも精神科の先生方が参加され、多彩 なお話を聞くことができました。日本全国の知識や 経験をこういう場でいただきながら、医療で地域 社会に貢献していければと考えています。

注意事項

- 1) 表記に関しては日本専門医制評価・認定機構の分類に則っています。
- 2) 専門医取得に際し、学会が認定した基幹施設において一定期間の修練が必須となる学会が あります。施設類型に関しては機構本部もしくは各施設にお問い合わせください。

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

静岡医療センター





院長PROFILE 小嶋 使ー (こじま・しゅんいち) 1948年生まれ、72年東北大学医学部卒業。 85年国立衛陽路病センター 価報器料医長、93年国立東静病院 (現静 岡医療センター) 臨床研究部長、2001年国立東静病院 (現静阿医療 センター) 副院長を軽て、2010年辰長に就任。 日本5科学会総合科科専門医、日本智麗学会専門医、日本循環器学 会専門医を移放

「患者さんの目線での医療」を理念に掲げ、24時間の 救急体制で地域のニーズに合った医療の充実を

当院は地方循環器センター・静岡県東部がんセンター・エイズ拠点病院となっており、循環器診療・がん診療・総合診療・救急医療に取り組んでいます。昔はがん患者が多かったのですが、平成14年に静岡県東部に県立癌センターが開設されたおかげで、当院の役割は循環器疾患を中心とした救急医療がメインとなっています。麻酔科が24時間スタンバイしており、緊急手術がいつでもできるという強みがあり、循環器内科は年間100例以上の心筋梗塞の治療を行っています。大動脈破裂などは静岡県東部の患者さんはほとんど当院に搬送されてきますので、年間30件近くにもなります。

最近では循環器系の若い先生が来てくれて、そのおかげで新しいことも始めています。たとえば、不整脈のアブレーション治療やCRT-Dシステムの植え込みなどは、新しいことに挑戦したいという若い先生の要望があり、それに応じて必要な設備を揃えていった感じです。

当院は静岡県東部で年間2500件以上の救急搬送を手がけており、また麻酔科や看護部との協力関係も非常に良く、救急患者が来てもほぼ100%サポートできます。そこが非常に優れた部分です。麻酔科が24時間体制といいましたが、それも看護師さんが優秀なおかげだと感じています。たとえば、看護師さんが点滴をする、ある程度的確に病態をつかんで医師に連絡をするなど、そういった連携が

あってこその救急体制だと思うのです。また画像診断においてもいつでもすぐにCTが撮れる体制ですし、緊急の血液検査も可能です。そういった検査が非常にやりやすいところも当院の強みであり、いいところだと自負しています。

当院には附属看護学校が併設されているため、幸い看護師の数は確保できています。けれど医師の数はまだ十分ではありません。しかし、若い先生からの不満は聞いたことがなく、非常に前向きに医療に取り組んでいただいていると感じています。みなさんが医療体制に非常に協力的です。否定的な意見がほとんど出てこないのは不思議なくらいで、こちらが感心しているほどです。逆に言うと、医師の数が不足しているので、その分若手が経験できることが多く、新しいことを自分で立ち上げて行くというようなやりがいがあるのかもしれません。

最後に研修医の方へのメッセージですが、オンとオフをきちっと区別できるようにして欲しいと思います。もちろんこれは病院のほうでも配慮しなければいけませんが、仕事をするときはきちんとやり、休むときはしっかり休む。こういう体制を自分自身でとるということ。あとは研修医のときにこそ、できるだけいろんな患者さんに自分から進んで接触して欲しいということです。そのなかで、将来深くやってみたい疾患を自分で探し出し、それに継続して取り組んでもらいたいと思っています。

静岡医療センター DATA

■ 所在地

静岡県駿東郡清水町長沢762-1 http://www.hosp.go.jp/~tsh/

■ 病床数 450症

■診療科目

■ 8022代刊 内科/神経内科/精神科/循環器内科/呼吸器内科/消化器内科/外 科/心臓血管外科/呼吸器外科/脳・神経外科/呼吸器外科/小児外 科/産婦人科/整形外科/形成外科/リウマチ科/泌尿器科/眼科/ 小児科/耳鼻咽喉科/皮膚科/麻酔科/放射線科/歯科口腔外科/麻 酔科/リバビリテーション科/病理診断科/

■ 研修の特色

最大の特徴は1年目に放射線料を3カ月やるということです。患者さんを診ると きには、まず身体所見を重視しますが、その次に大事になってくるのが画像診 断です。手術が必要かどうかを確定するのも画像診断になります。後期研修で は症例をたくさん経験してもらいます。また地域の救急輪番体制に参画してお り、救急心筋梗塞を中心とする二次救急患者の治療を経験できます。









静岡医療センターのある街 北に富士山、東は箱根、南には伊豆半島と観光に最適な場所

静岡医療センターのある駿東郡清水町は、人口約21万人の沼津市と、人口約11万人の三島市のほぼ中間にある。北には富士山、東には箱根連山を望み、近くには富士山の湧水が造る柿田川がある。雄大な富士山が造った湧水は日本国内では最大の湧水群で、飲料水として利用される。ここは自然豊かな景観と温暖な気候に恵まれたリゾートエリアでもある。

病院にも近い長泉町にあるクレマチスの丘は花と美術館・食を楽しめる複合文化施設。美術館でアートを楽しんだあとは「リストランテ・ブリマヴェーラ」や「日本料理テッセン」などでゆっくりと

時間を過ごすことができる。

お茶で有名な静岡県だが魚もおいしい。新鮮な魚介類を買ったり食べたりできる場所も多く、東京からわざわざ魚を食べに来るツアーがあるほど。また、古くから栄えた静岡県には名所旧跡や伝統的な祭りも多く、自然の景観も伊豆半島から浜名湖まで続く美しい海岸線、富士山麓の高原、田園地帯が広がる遠州路など観光するには最高の場所だ。東京・品川から新幹線で1時間あまりと、アクセスも非常にいい。都会の喧騒を離れ、心身ともにリフレッシュするのに最適なロケーションである。

